

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名:

大学院医歯薬学総合研究科

学域名:

医歯薬学域

部局長名:

成瀬 恵治

目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
① 大学院充足率100%以上を目指す。特に博士後期課程の定員充足に向けて、HP (SNS発信を含む)での効果的な研究紹介や入学説明会を実施する。各研究室において留学生を積極的に受け入れるような環境を整えるよう働きかける。	(2-1) (4-1) (5-1) (6-1) (7-1)	①大学院充足率124%(159/128)と、目標値を大きく超えることができた。
② AI関係の人材育成のため講義を積極的に行う。特に生成系AIの医学・医療への活用を目指した教育に力を注ぐ。		②DXセミナー「高品質データが導く医療AIのブレイクスルー」を開催した。
③ 留学生受入数増加のため、オンライン入試を行う。また広報としてHPの英語版の充実を図るなど積極的な情報発信に取り組む。		③留学生163名が鹿田キャンパスに在籍している。また、第9回留学生研究発表会には121名の参加者があり、活発な意見交換を行った。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
① 科研費獲得率75%以上、申請率100%を目指す。そのために、応募資格者を把握し、有資格者に対し科研費申請を働きかけるとともに、予備添削などを組織的に行う。また、民間助成金などへの積極的応募を促す。	(8-1) (8-2) (10-1) (10-2)	① 科研費獲得率等は次のとおりであり、一部、目標に及ばなかった。 ・科研費獲得率： 医歯薬学域(医) 66.0%、(歯) 85.7%、(薬) 85.0%、(医療教育センター) 66.7% 大学病院(医)82.4%、(歯) 125.6% ・申請率： 医歯薬学域(医)91.9%、(歯)100%、(薬)100%、(医療教育センター)100% 大学病院(医)91.4%、(歯)97.6% 予備添削(医学系(病院含む): 24件、薬学系: 65件)を行うとともに、応募資格者のリストを作成し、積極的な応募を働きかけた結果、応募件数は前年度に比べて増加した。
② 橋渡し研究プログラムを推進のため、中四国の各大学とさらに密に連携し、学内外からシーズを募り、優れたシーズを発掘する。		② 中国・四国地方のアカデミアネットワーク(中国・四国TR連絡会)を形成し、研究シーズ支援の協力体制を構築している。院内では診療科訪問を実施し、学内シーズの掘り起こしを行った。とくにゲノム医療に関しては、中四国地域を中心とする26施設の医療機関と連携し、がんゲノム医療の社会実装を推進している。 橋渡し研究プログラムを推進のため、中四国の各大学とさらに密に連携し、学内外からシーズを募り、優れたシーズを発掘した。
③ 学内外・異分野との共同研究を促進するため、ブレインストーミングなどを開催する。		③ 直島ベネッセハウスにてブレインストーミング2025を開催し密度の濃い議論を行うことができた。また2026年に向けた準備も開始した。 学内外の異分野融合を目的に、先端医学研究トレンドを2回、Brainstorming2025を今年度も開催した。累計247名が参加し、第一線で活躍する研究者による特別講演や産官学の共同研究を進めるためのパネルディスカッション等を行った。
④ Top10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文の重要性について構成員に周知する。特にQ1ジャーナル掲載数については対前年度比1.8%増を目指す。		④ Top10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文の重要性について各会議にて構成員に周知するとともに、重要な項目であることを解説した。その結果、Q1ジャーナル論文については、学術研究院では前年度522件に対し今年度500件と対前年比-4.2%であったが、大学病院では前年度459件に対し今年度463件で対前年比+0.87%であった。
⑤ 共同・受託研究費及び受託事業受入額をR5年度比1.5倍を目指す。		⑤ 共同・受託研究費及び受託事業受入額は、医歯薬学総合研究科: 2,526,922千円、大学病院: 972,705千円であり、令和5年度受入額の1.5倍を達成した。
<研究科の系としての目標・取組>		
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
① 地域医療への貢献の面から、研究科所属の寄付講座を新規に設置、又は必要に応じて更新する。	(1-1)	①現在、31講座(継続26講座、R7年度新設5講座)が開設されている。
② 治験の推進などについて、CMA-Okayamaの活動に研究科として協力する。		②岡山大学臨床研究講習会を開催した。岡山大学特定臨床研究監査委員会を主催した。
③ 岡山健康講座を市民公開講座として開講し、市民、県民の健康増進に協力する。		③岡山健康講座2025を鹿田会館にて5回開催した。好評につき引続き2026年にも開催予定である。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
① 種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会への教職員の出席を促す。		① 種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会への教職員の出席を促した。
② 若手教員・女性教員の積極的採用や、研究助教の設定などを行い、研究・教育の場で活躍しやすい環境を作る。		② 若手教員・女性教員の積極的採用や、研究助教の設定などを行い、研究・教育の場で活躍しやすい環境を作った。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。